

令和7年度第1回 別府市公共交通活性化協議会 会議要旨

日 時	令和7年4月17日（木） 13:30～
場 所	別府市役所 1階 レセプションホール
出席者 （委員）	阿部 万寿夫、東 欣哉、後藤 悠介、 <u>荒巻 良考</u> 、 <u>望月 郁男</u> 、下森 正也、平松 久幸、大平 順治、河野 龍児、 <u>久保山 久美子</u> 、 <u>稲積 京子</u> 、 <u>藤木 淳史</u> 、 <u>小島 仁</u> 、 <u>山田 和洋</u> 、 <u>谷川 征嗣</u> 、 <u>山下 竜雄</u> 、 <u>山内 佳久</u> 、 <u>谷原 一心</u> 、 <u>大井 尚司</u> 、 <u>田原 裕之</u> 、 <u>河野 圭史</u> 、 <u>日置 伸夫</u> 、 <u>田辺 裕</u> 、 <u>安部 政信</u> ※委員24名中 出席18名（うち代理2名、リモート0名） 欠席6名（委任状受理）
議 事	（1）審議事項 第1号議案 インバウンド対策事業について （2）報告事項 第2号議案 ボランティア輸送（共助型ライドシェア）について 第3号議案 別府市地域公共交通計画の事業達成状況の評価について
（1）審議事項 ■第1号議案 インバウンド対策事業について 事務局から「湯けむりライドシェア GLOBAL」に係る導入の目的及び具体的内容等について説明・提案。 （意見・質疑応答等については次のとおり。） ➤ 運送区域は別府市内が出発または到着となっているが、どこまでの範囲で行うのか。どういった車両を使うのか。自家用車はどのような自家用車を持ち込めるのか。 ☞ 運送区域については、別府市から湯布院や大分空港から別府市といった輸送を想定している。市の車両には限りがあるので、持ち込み車両になる見込み。インバウンドを主眼にしているので、定員が5人以上の車両ということになり、軽自動車は使用しない。スーツケースの運搬も考えられるので、ある程度の容積量を確保できることを条件にしていこう。その他、任意保険の条件や法定点検を受けていることといった制限もかけている。 ➤ 途中で故障したらどういった対応になるのか。冬にチェーンを巻くことができない一般の方もいると思うが、そういったときにサポートができるような体制はできるのか。 ☞ 運行管理でそういった点検も行うので、点検の際に危険な場合は運行させないような対応を取りたい。必ず始業点検や定期点検を行うので、そこで対応していきたい。 ➤ ドライバーへの教育はどうお考えか。深夜帯や台風・地震の場合にどのような対応をするのか。倒木による通行止めや迂回路等に関する情報の共有など、安心安全な輸送に懸念はないか。 ☞ 大臣認定講習の受講と合わせてトラック協会等による安全研修を別途受講する準備を進めている。深夜等の事故時の対応については、24時間のコールセンターを設けて、そこで対応する予定。外国人に対応できるコールセンターを設けて、トラブル等にも対応できるよう準備しているところ。 ➤ ドアツードアのデマンドということだが、JR構内での乗降は可能になるのか。大分空港での乗降場所は一般車が送迎するスペースになるのか。 ☞ JR構内への乗り入れは、タクシー事業者との混乱を招かないよう、出発時は乗車できないものとし、駅周辺については禁止区域としたい。大分空港の乗車場所については協議中であるが、タクシー	

事業者と同様一般車両のスペースは禁止区域として設定したい。

- 遠隔の運行管理となっているが、管理先は交通事業者の営業所ではなく、資格を持たないコールセンターなのか。その場合、点呼やアルコールチェックに問題はないか。1日当たり何台程度稼働させるのか。
 - ☞ コールセンターと運行管理は別々。遠隔での運行管理の経験があるところに運行管理を依頼する予定。運行規模は、24時間運行となるので、できるだけ多くの運転手を確保することを前提としており、稼働台数については制限をかけていない。
- SNS通じて外国人の方たちに悪い情報を発信されると、観光客が減少することが懸念される。逆にサービスがよければ、観光客間で素早く広がっていくことになる。外国の方が日本ですごく良いおもてなしを受けた場合、リピーターへとつながると思うが、「おもてなし研修」はあるのか。外国人に対してどういった情報発信を行っているのか。
 - ☞ 安全面以外の人材の育成等の研修については、国の補助をもらいながら、令和6年度から実施し、インバウンド対応、観光案内ガイド、外国人観光客をコーディネートできる人材育成を行っている。令和7年度も希望するドライバーがそのような研修を受けられるようにする。情報発信については、アプリをダウンロードしてもらわないといけないので、できるだけ施設等にチラシ等を配布するとともに、市のホームページやSNSを活用し、情報発信していきたい。
- 南部循環線と関の江循環線では福祉車両の導入が進んでおり、利便性がかなり上がっている。今回はインバウンドを対象ということだが、ドアツードアで24時間対応、アプリを活用ということであれば、金額が高くても障がい者の需要は高いと思う。インバウンドだけでなく、県外の障がい者が別府市に訪れた際に利用できるようなになればと思う。現時点での福祉車両の導入についての考え方を教えてもらいたい。
 - ☞ 南部循環線、関の江循環線とも福祉車両を導入しているが、今回のライドシェアはインバウンドを主眼に置いているので、福祉車両の導入は予定していない。障がい者対応については今後の課題として、2号ライドシェア以外の移動サービスを含めて検討していきたい。
- 積み残しの話があがっているが、事業者として4月頃から55人乗りの中型車両と81人乗りの大型車両を増車して、なるべく積み残しが出ないように頑張っているところ。
- タクシー協会も6～7月を目途にUberタクシーを導入する方向で検討している。各社一斉にとはいえないが、それぞれが準備でき次第開始していくので、少しは利用しやすくなると思う。
- 観光案内所等で移動手段を聞かれた際、プロの方が良いと思っているので、タクシーを使うよう伝えると思うが、タクシー協会がアプリを導入することにより、タクシー会社の電話番号を知らない方がアプリを使ってタクシーを利用できるので、多くのタクシー会社に導入してもらえればと思う。
 - ☞ タクシー・バス事業者にも改善してもらっており感謝している。将来的には、湯けむりライドシェアをやめ、交通事業者のみで移動手段を確保できるということが理想である
- この制度は国土交通大臣の登録を受ける必要があるが、本県では県知事が実施していくことになる。4月28日までに登録が必要なので、速やかに提出してもらいたい。この取組は全国的に事例が少なく、非常に関心が高い状況なので、運行を開始してから取組状況を各自治体にご教授願いたいと思っている。

【審議結果】

- ◎ 事務局案どおり承認することとなった。

(2) 報告事項

■第2議案 ボランティア輸送（共助型ライドシェア）について

事務局から「ボランティア輸送」に対する市の補助制度（対象団体、運行経路・運行区域・対象経費）について説明・提案。

（意見・質疑応答等は、特になし。）

■第3議案 別府市地域公共交通計画の事業達成状況の評価について

事務局から「令和6年度の事業達成状況の評価」について説明・提案。

（意見・質疑応答等については次のとおり。）

- 利用実績を記載しているが、事業者に面会もなければ、データの提出を求められたこともない。どこからの情報なのか疑問。一方的に実績を載せられると我々が不利益を被る可能性があるので、今後はデータを取るのであれば、事業者に聞いて取得するか、面談をしてもらいたい。我々の意見や問題点についても把握してもらえれば、より良いものができるのではないかと考えている。

☞ 記載している実績値については、公開されているオープンデータを活用している。路線バスの実績については、バス事業者からデータを受領、タクシーの実績については、九州運輸局の方で公表されているデータを使っている。今後は少し相談させてもらえればと思う。

- 別府駅は西口と東口があるが、西口はすごく整備されているものの、東口は待つところがなく、時刻表の看板の後ろに多くの人が待っている状況である。乗りたいバスが来たが、前に人がたくさんいるため乗り過ごしたという声が何件もあがっている。4番乗り場と5番乗り場の間にスペースがあるので、そのスペースを活用し、どこのバス停に並べばどこに行けるかを示してもらえればと思っている。

☞ 交通事業者も参加しているプラットフォームの中で協議させてもらい、この活性化協議会の方で図る必要があればその際は審議いただければと思う。

- 一般的にコロナ禍が明けて、利用実績が上昇傾向なのは当たり前だと思うが、この数値が施策を実施したことにより上昇しているのかがわからないので、今後はその辺の分析もお願いできればと思う。

☞ その辺についても、今後対応できるようにしていければと思う。